

令和7年度 第1回 藤沢市立湘南台中学校 学校運営協議会 会議録

日 時 2025年6月4日(水) 15:30から

場 所 湘南台中学校 第1会議室

○出席議員

川 口 昇	地域協力者会議 元会長
山 田 大 介	多摩大学 教授
伊 藤 雅 浩	湘南台市民センター長
西 川 典 利	日本語支援団体 代表(地区生活環境協議会)
中 原 優貴恵	学校運営協議会コーディネーター
望 月 千 春	日本語支援団体 代表
松 原 保	湘南台中学校 校長
森 満 弘	湘南台中学校 総括教諭(3年学年主任)
水 野 歩 美	湘南台中学校 教諭(地域連携担当)
古 宮 由佳子	保護者 P T A代表
牛 腸 郊 美	保護者 P T A代表
古 澤 昌 江	保護者 P T A代表

出席委員 : 12名

欠席委員 : 1名 政 近 吉 郎 湘南台中学校 教頭

その他出席者 : 1名 中 村 雄 伴 湘南台中学校 総括教諭(教務主任)

傍聴人数 : 0名

次 第

1 開 会

2 新規委員委嘱状の交付

3 自己紹介

4 議 題

(1) 学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)及び令和7年度湘南台中学校運営方針について

【副会長】

- ・国の方針に従い、学校運営協議会を各校に設置するように進めてきており、その協議会が設置されている学校をコミスクと呼んでいる。学校運営に様々な人に入ってもらい、学校運営状況を見てもらい、様々な立場から多くの意見を言ってもらい、機能的に、能動的に進んでいけるようなことを目指す会議である。
- ・これまでも、学校評議委員会もあったが、現在はこの運営協議会にシフトしている。

違いは、教職員の人事に関わる意見反映ができること。具体的には、学校現場にそのような人材が必要なのかを教育委員会に意見・打診することができる。

- ・この2年間でいくと、湘中ルームに見守りボランティアの方々に入ってもらい、支援を受けている。学校外での活動にも多くの受入をしてもらっている。湘南台地区学校応援団がより機能的に動いており、そのおおもとを担っているのがこの協議会であり、皆さんにはその委員を担ってもらっている。
- ・学校経営方針については、これを基に各学年が学年経営方針や各クラスの学級経営方針を出している。

(2) 湘南台中学校の概要について

【委員】

- ・湘南台中学校のイメージキャラクター「しよなみん」が完成したので、様々な場面で「しよなみん」を活用していく。
- ・昨年と比較し、クラス数は1減少している。
- ・職員は56名ではあるが、それ以上の方々の力添えがあって学校が運営できている。
- ・35人学級が実施されていくと、教室数の不足が考えられる。現在、特別教室として利用しているところも、クラスの教室として組み込む必要が出てくる。
- ・体育館のエアコン設置工事も終了し、今後、有効活用をしていく。

※質問・感想

【委員】

- ・学校の大きな施設改修などは無いか？
→市から提示されている計画はない。
地域の方や生徒達で、部室棟等の外壁の塗装をする相談を地域の方としている。

(3) 各学年について

【3年】

- ・修学旅行に行き、そのまま息をつく間もなく体育祭を実施した。様々な行事が縮小されていくような中ではあるが、3年生としてよくやってくれた。
- ・今後は進路学習に向かっていく予定

【2・1年】

- ・SDGsを中心に総合学習を進めていき、探求型の学びを実践していく。地域にも協力をさせていただくことが出てくる予定。

【7組】

- ・様々な行事の中で通常級の生徒と交流を深めて行っている。

(4) 湘南台中学校運営協議会について

- ・昨年度の報告及び今年度の方向性

【副会長】

- ・昨年度はこの運営協議会のある程度の形作りができた。学校の困り感を話すことばか

りだったのが、生徒が地域に出て行く活動を増やし、学校を開いていく動きをとることができた。中学生はこんなことができるのかなどを地域の人にも知ってもらえるようになってきた。地域との関わりの中で、様々なことを進めさせてもらっている。湘中ルームもそうであるが、子ども達の安全や防災などの意識も高めていきたい。働き方改革、部活動の地域移行などの中で、子どもの体験や機会に制限はある。公民館サークルの方々の協力もあって、有意義な学びができた。

- ・地域の祭りなどに中学生の力が必要ならば、積極的に関わってくれる子もいる。今年度は職員の水野が窓口となって進めていく。
- ・今後はよりよい方法をお知恵をお借りしながら探っていく。特に、外国とのつながりを持つ生徒が多く、日本語の習得に苦戦している子もいる。日本語を介して、教科の学習を進めていくのは難しい。支援の体制をこれまで以上に作っていきたい。
- ・今年度より、国際教室を開設し、教職員も配置された。子ども達自身はうまく関係を作りながら生活をしているが、次に繋がるような適切な支援をしていく際に、委員さんにもご協力をいただけたらと思う。

※質問・感想

【委員】

- ・外国に繋がる生徒はどこの国の言語が多いのか？
→中国、中東、フィリピン、スリランカ、オーストラリアなど
 - ・日本語が分からない子は？
→特にいないが、中国の子は漢字のニュアンスをつかんで理解している。自力で力を付けている。スリランカの子は日常会話はなんとか。学習言語については支援が必要。
 - ・指導員は入っているか？
→昨年までは入っていた。昨年は湘南台小学校の日本語指導教室に行っていた。今年度は国際教室の開設により、行っていない。
 - ・高校の在県の適用枠が広がったので、様々な高校を視野に入れるといい。
- ・湘南台地区学校応援団について

【伊藤委員】

- ・公民館事業として、ギャラリーを学習スペースとして期間を決めて開設できたらと計画中。地域の高校生や大学生が市民センターの事業を手伝いに来ており、そのような学生をボランティアとして力をかりたい。他にもいろいろな方・場所と連携をとりたい。
- ・居場所作りを様々なところで行っていて、湘南台市民センターとしてもできればと考えている。

※質問・感想

【委員】

- ・場所の確保が難しいなかで、これはすごくいい。

- ・他の地域ではどれくらいの利用になっているのか？
→地域によってバラバラ。「みんな」との開催は土曜の午前中が多いが、場所の確保が難しい。
→六会市民センターはすぐにいっぱいになる。
- ・協議会として手伝えることは？
→応援団との連携をとっていきたい。ボランティアにも昼食を食べられるくらいの謝礼は出したい。ボランティアを募集する日は、センターの担当が付けそうな日を考えている。
→大学は、何ができる人を何人などと決めてオファーしてくれれば、探しやすい。
→湘南台中の学生ボランティアを派遣するのもあり。

(5) その他

- ・外国籍の子達に何かしたいけれど、何か今後の計画はあるのか？
→個別に支援をするようなケースがあるから、個別の相談をさせてもらうことはある。
- ・小学校が手厚い支援の中で、中学校は緩い。長後中、高倉中、湘南台中では授業の空きの先生が見ている状態。国際が開設されても、教室でお客さん状態。一番つまずくのが中学。何を言っているのかが分かるようになると、その支援がしやすくなっていく。一人ひとりその子の背景も考えながら。プライバシーも配慮しながら。
→困り感を出してくれると支援しやすい。実際に、支援が必要か調査をしたが、希望はほとんどない。時間をかけて調査、整理を進めていきたい。
- ・湘中ルームの運営はうまくいっているのか？今後も継続するのか？
→20人くらいのボランティアが入っている。利用生徒の人数にもよるが、このまま継続していき、学習支援員など必ず大人が配置される状態となっている。
- ・湘南台公園のテニスコート、埴輪の近くに、カラスが巣を作って、子どもが生まれた。襲ってくるので、中学生も気をつけて。

5 その他

- ・今年度の会議日程（予定）

第2回	9月 2日（火）	15：30～	（会場：湘南台中学校 第1会議室）
第3回	11月19日（水）	15：30～	（会場：湘南台中学校 第1会議室）
第4回	2月25日（水）	15：30～	（会場：湘南台中学校 第1会議室）

6 閉会